

# 医療スタッフと清掃スタッフとのギャップを埋める

前川勤子  
(まえかわ いそこ)

「癒しのトイレ研究会」研究員 ディバーシー 株式会社

癒されるトイレ環境とはどんなものか、病院や福祉施設の水回りを研究する「癒しのトイレ研究会」。研究員として病院側との接点も多いというディバーシー(株)の前川勤子氏に、病院清掃における課題についてお話をいただいた。

## 利害を超えて

みなさん、病院のドクターが日頃どういったことを大切だと思っているか、意識したことはありますか？ 病院の事務長を対象にしたアンケートでは感染対策がダントツのトップ、2番目が転倒対策になります。これは高齢者施設でも同様の結果でした。

癒しのトイレ研究会は、こういった医療スタッフや患者、高齢者などを対象に調査を行い、年1回発行する研究誌やホームページ、

セミナー、学会で情報を広く還元する活動を行っています。

病院の水回りに関する、1社だけでは解決できない問題に対して、床材、壁材、ケミカルなど関連メーカー5社が集まり、利害を超えて環境整備の必要性を訴えていこうと10年前に発足した団体です。

## 中立的な立場で情報発信

「安全で、快適で使いやすく、使用者の気持ちに配慮した癒しのトイレ空間を創造し広く普及する」

ことを理念としていますが、その活動は直接利益に結びつくようではありません。

弊社がこの研究会に参加しているのは、やらねばならない必然に駆られているというのが実際です。

医療スタッフと清掃スタッフは病院という場を共有していますが、相互理解というのはまだまだ進んでいないのではないかと、強い危機感をもっています。

と、強い危機感をもっています。

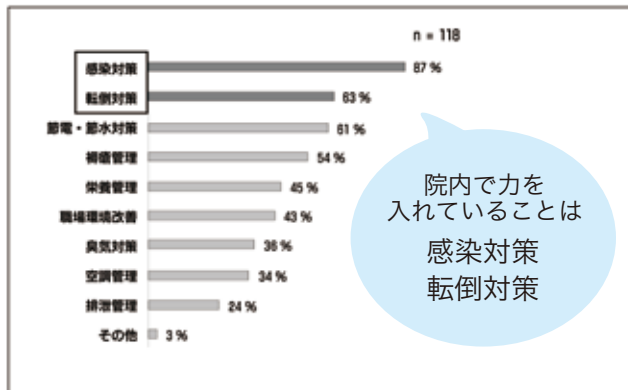
病院ではたくさんの清掃スタッフの方が働いており、みなさんが病院の環境を支えています。清掃の現場では看護師や看護助手の方とコミュニケーションをとると思いますが、例えば感染管理室のドクターや院長が何を望んでいるか、実際に知る機会は少ないのではないのでしょうか。

また、みなさんが病院側の考えをわからないように、病院のスタッフ側もみなさんがどれだけ手間をかけて、工夫して、時間を惜しまずに清掃しているかを知らないわけです。そこにどうしても意識のギャップが生じてしまいます。

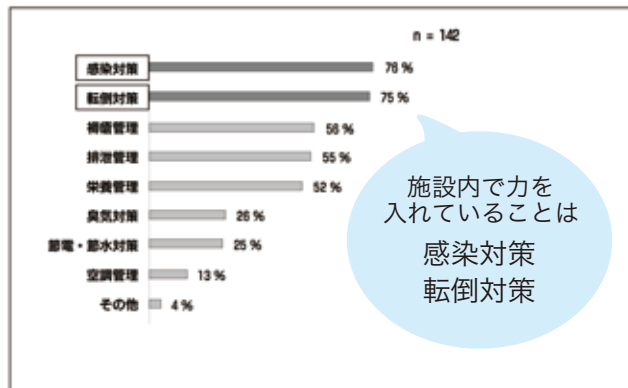
アンケートでは「感染症対策に力を入れている」との結果が出ていますが、病院が環境感染に注目しはじめたのはここ1~2年という印象があります。現在でも1企業でアプローチしたのでは、なかなか耳を貸してもらえません。そこに中立的な研究会として、情報を発信する意義があるわけです。

毎年入札で1円でも安いところを選ぶような悪循環を断ち切るためにも、病院の責任ある方たちに清掃の大切さを知ってもらいたいと考えています。

Q. 院内で力を入れていることは何ですか？ (複数回答)



Q. 施設内で力を入れていることは何ですか？ (複数回答)



病院(上)と高齢者施設(下)で実施したアンケート。いずれも院内感染と転倒対策に力を入れているという結果が出た

「癒しのトイレ研究会」ホームページ  
<http://www.hospitality-toilet.jp/>  
※調査・研究の詳細、研究誌の内容はこちらのホームページでご確認いただけます